

イスラエル経済月報（2019年3月）

在イスラエル日本国大使館（担当：経済班 栗田 宗樹）

<目次>

イスラエルの動き（主な報道）	3
主要経済指標.....	7
1. 財政（National Accounts）	
2. 消費者物価指数（CPI）	
3. 貿易(Export & Import of Goods)	
4. 失業率（Unemployment Rate）	
5. 為替（Exchange Rate）	
6. 外貨準備高（Foreign Reserve）	
7. 主要株価推移（TA35）	
イスラエル 経済関係.....	11
外国投資規制 政府は外国からの投資を監視する委員会設立を検討	
^{100億} 1,960 億 NIS 相当のインフラ案件を政府が推進中	
^{スタートアップ} スケールアップネーションへ	
AI イスラエルの AI 分野の企業が 1,100 社を突破	
日本-イスラエル 経済関係.....	16
^{IoT} IoT 等 みずほ情報総研及び京都リサーチパーク、ベルシェバの GAV-YAM	
NEGEV と業務協力覚書を締結	
^{半導体} TOWER SEMICONDUCTOR がパナソニックセミコンダクターソリューションズとの提携契約を 3 年間延長	
イスラエルにおける展示会・国際会議の今後の予定	18
^{航空} The 59th Annual Conference on Aerospace Science（2019 年 5 月 6 日、テルアビブ、7 日、ハイファ）	
^{バイオ} MIXiii BioMed（2019 年 5 月 14～16 日、テルアビブ）	
^{NEW} ^{マイクロエレクトロニクス} ChipEx2019（2019 年 5 月 12～13 日、テルアビブ）	
^{NEW} ^{5G} 5G UNIQUE SUMMIT（2019 年 5 月 16 日、リシオン・レツィオン）	
^{NEW} ^{アジャイル開発} Agile Israel 2019（2019 年 5 月 21 日、リシオン・レツィオン）	
^{NEW} ^{アクセシビリティ} Access Israel's 7TH International Conference On The Future Of Accessibility（2019 年 5 月 23～27 日、テルアビブ）	
^{NEW} ^{宇宙} TECHNOLOGY AND SPACE CONFERENCE（2019 年 5 月 26～29 日、エルサレム）	
^{NEW} ^{AI} Ai 2019（2019 年 5 月 28 日、テルアビブ）	
^{ハイテク} New-Tech 2019 Exhibition（2019 年 5 月 28～29 日、テルアビブ）	
^{NEW} ^{IT/テック} ISRAEL EDUCATION INNOVATION WEEK（2019 年 6 月 2～6 日、テルアビブ）	
^{NEW} ^{ブロックチェーン} Token Fest – The business of Blockchain（2019 年 6 月 3～4 日、テルアビブ）	
^{NEW} ^{スポーツ/テック} Future Sport Israel（2019 年 6 月 3～6 日、テルアビブ）	
^{NEW} ^{防衛} ISRAEL DEFENSE & HLS EXPO 2019（2019 年 6 月 4～6 日、テルアビブ）	
^{観光} Travel Tech Israel 2019（2019 年 6 月 10～12 日、テルアビブ）	
^{スマートモビリティ} EcoMotion Week 2019（2019 年 6 月 10～13 日、テルアビブ）	
^{NEW} ^{React} React Next 2019（2019 年 6 月 11 日、テルアビブ）	
^{NEW} ^{モバイル} Israel Mobile Summit 2019（2019 年 6 月 12 日、テルアビブ）	
^{サイバーセキュリティ} CyberWeek（2019 年 6 月 23～27 日、テルアビブ）	

- NEW** **農業** AGRISRAEL4.0 (2019年6月24~27日, テルアビブ)
- NEW** **フィンテック** Fintech Junction (2019年6月26~27日, テルアビブ)
- NEW** **SaaS** SaaS Tiger (2019年6月26~27日, リシオン・レツィオン)
- NEW** **宝飾品** Jovella 2019 (2019年7月9~10日, テルアビブ)
- NEW** **ヘルスケア** The 1st Congress on Women's Health Innovations & Inventions (2019年7月9~11日, テルアビブ)
- NEW** **サイバーセキュリティ** ICS CYBERSEC 2019 (2019年9月16日, リシオン・レツィオン)
- NEW** **イノベーション** DLD Tel Aviv INNOVATION FESTIVAL 2019 (2019年9月16~19日, テルアビブ)
- NEW** **印刷** ISPRINT (2019年10月29~31日, テルアビブ)
- NEW** **通信** IEEE COMCAS 2019 (2019年11月4~6日, テルアビブ)
- NEW** **再生医療** 7th International Stem Cell Meeting (2019年11月12~13日, テルアビブ)
- NEW** **水** WATEC Israel (2019年11月18~21日, テルアビブ)
- NEW** **サイバーセキュリティ** CyberTech (2020年2月3~5日, テルアビブ)

日本におけるイスラエル関連イベントの今後の予定 24

- NEW** **建設技術** 第1回 関西-イスラエル Web セミナー]【建設技術】 (2019年4月16日, 大阪・ウェブ上)
- 農業** 第3回農業 Week 大阪 (5月22~24日, 大阪)

New イスラエルの大学の夏季・冬季短期プログラム 25

- 各大学のアントプレナーシップサマープログラム
- 各大学の短期プログラム (総合)

※本資料は、報道や政府発表、企業発表等の一般公表情報を基に作成しております。

イスラエルの動き（主な報道）

（出典：報道）

- 1日 独、西、中など、6つの国際コンソーシアムが、テルアビブのライトレールトレインのグリーンラインとパープルラインの入札に応札。入札の規模は150億NIS。
- 1日 エクソンモービルはキプロス沖にガス田を発見したと発表。1,400~2,300億m³規模（イスラエルのタマル・ガス田は2,800億m³）とみられる。
- 1日 情報筋によると、エル・アル航空は、テルアビブ-シカゴ間の直行便を来年開設。
- 4日 イスラエルのスタートアップは、2月に約5.5億ドルを資金調達した。
- 4日 米国テキサス州が、ヨルダン川西岸入植地の取扱をやめるとするAirbnbの方針に対抗し、「イスラエルをボイコットする企業」のリストに同社を加えた。
- 4日 アマゾンの人気商品Ring Video Doorbellの脆弱性を、イスラエルのDojo by BullGuardの研究者が発見した。暗号化されていないデータ転送を突き、家の様子を監視できる。
- 4日 ギリシャのエネルギー企業Energean社は、イスラエルの沿岸天然ガス田Karishの掘削開始を発表。確認済みの670億m³に加え、360億m³の埋蔵を確かめるため。
- 5日 イスラエル中央銀行が、信用情報のデータベースを6週間以内にオンライン化する。中銀が銀行等から顧客情報を吸い上げて複数の機関に提供し、当該機関が信用格付けを行って金融機関等に提供する仕組み。寡占の消費者信用市場が大きく変わる可能性。
- 5日 世界銀行の雇用及びビジネスでの男女平等指数で、イスラエルは76位。女性の引退年齢の低さ、宗教裁判所での離婚手続、男性の育児休暇の選択機会の乏しさが響いた。
- 5日 価格統制品である乳製品の価格を上げることを拒否した財務省及び農業省の決定に対し、最高裁が価格引上げを命じた。乳製品は3.4%値上げされることとなる。
- 5日 2020年に独自の暗号資産（仮想通貨）を提供するというフェイスブックの計画の中核を担う同社のイスラエル研究開発センターが、体制を拡大中。
- 5日 ハイファ新港の建設を発注するイスラエル港湾開発・資産会社が、運営管理を担う中国Shanghai International Port Groupから、建設の遅れによる損害の補償を求められる可能性。工事遅延はハイファ市による反対によるもの。
- 6日 ベングリオン空港がセキュリティチェックの自動化を導入。まずは、生体認証技術付きの旅券を持つイスラエル人のみが裨益するが、第二段階では外国人も対象となる。
- 7日 コンサル会社の調査によると、テルアビブ証券取引所上場企業のトップ125社の経営陣うち、女性の割合はわずか12%。
- 7日 イスラエル証券庁に設置された委員会は、デジタル通貨を投資家に発行して資金調達ができるようにするプラットフォームを、適切な規制の下で創設すべきと提言。
- 7日 医療・ヘルスケア分野のVC aMoonが6億ドルの2号ファンドをクローズ。さらに2.5億ドルのコミットメントをクレディ・スイスから得ている。
- 7日 アラブ系イスラエル人の大学生は過去7年間で80%増加したが、専攻分野で就職できた者は同じ割合では増加しておらず、専攻分野で常勤の職を得たのはわずか22%。
- 8日 財政赤字が対GDP比3.5%に拡大。税収の落ち込みによる。

- 8日 世界経済フォーラム世界男女格差指数 2018 によると、イスラエルは 149 か国中 46 位。労働力の 47%を女性が占める一方、経済面での男女平等参画では 66 位に沈む。
- 8日 ガラリヤ湖畔に拠点を置く Kinneret Innovation Center は、ヨルダン渓谷のアグリテックに投資するベンチャーファンド創設を発表。5,000 万ドルの調達を目指す。
- 8日 ヨルダン外務省は、エイラットのホテルで雇用されるヨルダン人労働者を 33%増やすことでイスラエルと合意したと公表。労働者は、毎日国境を出入りして通勤する。
- 8日 サムスングループの IT 企業 Samsung SDS 社は、イスラエルのクラウドスタートアップ Iguazio 社の数千万ドル規模の資金調達に参加するとともに、戦略的提携を発表。
- 8日 エルサレムのクラウドファンディング型 VC の OurCrowd は、6 年前の設立以来、18 のファンドで 10 億ドルの資金コミットを得ており、170 社に投資してきたと発表。
- 11日 Start-Up Nation Central のレポートによれば、イスラエルの AI 関連スタートアップは、2014 年の 512 社から、2018 年には 1,150 社に倍増した。
- 11日 独ソフトウェア企業 SAP 社は、テルアビブでアクセラレータープログラムを開始。最大 10 社のスタートアップが、SAP の顧客データベースや技術にアクセスできる。
- 12日 米エヌビディアが、ナスダック上場のイスラエル企業 Mellanox を 69 億ドルで買収予定。モバイルAI買収に次ぐイスラエル史上 2 番目の大型買収案件。Mellanox は、インフィニバンドとイーサネット技術を用いた高速通信機器を開発・販売している。
- 12日 エルサレム市と財務省、国土庁が、同市に 23,000 軒の住宅を建設することで合意。15 億 NIS がインフラ投資に投じられる。
- 12日 イスラエルの灌漑企業ネタフィムは、インドで 1 億ドル以上の灌漑プロジェクトを受注。100 以上の村で 6 万人以上に灌漑システムを供給する。
- 12日 北京の自転車シェアリング Mobike 社の海外からの撤退方針は、イスラエルでの活動に現在のところ影響はないと、イスラエルのフランチャイズ Car2Go 社広報が発言。
- 13日 スtockホルム国際平和研究所の年次報告書によれば、イスラエルは武器輸出で世界 8 位。世界の総輸出額の 3%を占める。武器の国際取引額は過去 5 年で 8%増加。
- 13日 医療分析 Zebra Medical Vision 社が、インドの病院チェーン Apollo Hospitals Enterprise 社の子会社と提携。AI を用いた胸部 X 線写真解析により結核の早期発見を目指す。
- 14日 会計検査官が公共交通に関する報告書を公表。公共交通機関の不足が招く、渋滞による生産性低下、大気汚染、騒音などの悪影響は、年間数百億 NIS に及ぶと指摘。
- 14日 イスラエルの大手輸出企業の約半分が、外国企業により所有されていることが判明。
- 15日 情報筋によると、エクソンモービルがイスラエルの沖合油田・ガス田探索に関心を示し、シュタイニッツ水・エネルギー相と会談。参入すれば、オイルメジャーで初。
- 15日 イタリアの石油・ガス探索会社 Eni 社が、エジプト沖 50km の Nour で天然ガスを発見したと発表。埋蔵量は 2.55 兆 m³と見られ、イスラエルのリヴァイアサン の 5.3 倍、タマルの 10 倍の規模。
- 15日 エル・アル航空が 2018 年の決算を発表。税引前利益は 6,800 万ドルの赤字。売上は前年比 2%増となったものの、燃料高、人件費高、シェケル高で赤字となった。
- 18日 現在エルサレム-ベングリオン空港間が開通しているエルサレム-テルアビブ間の高速度鉄道が、年内にはテルアビブまで開通する予定。2008 年完成予定が度重なる遅延。
- 19日 イスラエルの Delek Drilling 社と米国 Noble Energy 社は、保有するレバイアサン天然ガス田の権益を手放すことを検討。

- 19日 イスラエルも参加する共通報告基準（CRS）と呼ばれる国際的な税基準の仕組みが開始。金融機関の非居住者の口座情報を、税務当局を通じて相手国政府に報告するもの。
- 19日 関係者によると、イスラエル国防軍が、将来の作戦上のニーズを満たすために、イノベーションと技術開発の部門を設立することを検討中。
- 19日 PEファンド Israel Infrastructure Partners 社が 3.5 億ドルのデットファンドを組成。外国からイスラエルのインフラへの投資を促すことを目的とする。
- 19日 政府は、主として中国からの電気自動車の輸入を認める予定。カツツ運輸・道路安全相が発言。輸入業者 1 社につき、400 台の輸入が認められる模様。
- 20日 ブリティッシュ・エアウェイズ等の親会社であるインターナショナル・エアラインズ・グループの幹部複数名が、技術探索のためにイスラエルを訪問。
- 20日 エコノミスト紙の調査部門が公表した年次報告書によれば、テルアビブは世界で 10 番目に物価が高い都市で、ロサンゼルスと同順位。シンガポール、パリ、香港が一位。
- 20日 輸出機構によれば、2018 年のイスラエルから中国への半導体輸出が、前年比 80% 増の 26 億ドルに達した。そのうち少なくとも 80% がインテル製品と思われる。
- 20日 エル・アル航空は 2020 年 3 月からテルアビブ-シカゴ間の便を開設。週 3 便。
- 20日 水・エネルギー省の予算わずか 1,000 万シェケルの充電ステーション建設の助成金に、32 の自治体が申請。審査を通過した各自治体には、100 万 NIS が支給される。
- 20日 イノベーション庁は、福祉や健康課題に取り組む企業への助成制度である Grand Challenges の採択企業 9 社を発表。1 社当たり約 14 万ドルから 28 万ドルが支給。
- 21日 Newsweek 紙が、イスラエルのシェバ・メディカルセンターを世界のトップ病院第 10 位にランク付け。国際的組織との連携によるイノベティブな取組等を評価。
- 21日 チェコ自動車製造シュコダは、2017 年に開設したテルアビブのデジタルラボで、AI、ビッグデータ、サイバーセキュリティ、センサーの 13 のスタートアップと連携中。
- 21日 インドに拠点を置く VC の Anthill Ventures が、テルアビブにアクセラレーターを開設予定。アジア市場参入の可能性のあるスタートアップに最大 100 万ドルを投資。
- 22日 テルアビブ市、Atidim ビジネスパーク及びテルアビブ大学の共同事業体である CityZone が、スマートシティに関するイノベーションラボと実証フィールドセンターを開設。スタートアップの技術開発をサポートする。プロジェクトに参画する多国籍企業の中には、ルノー-日産-三菱自動車のイスラエルイノベーションラボも。
- 22日 エルサレムへの天然ガスパイプラインが 2.9 億 NIS をかけて完成。ただし、減圧施設は未完成で、消費者のもとにガスが届けられるのは 2020 年を予定している。
- 22日 累積する財政赤字への対応として、財務省が観光税の導入を検討。また、観光客への免税措置撤廃も検討している模様。複数の政府関係者が匿名を条件に明かした。
- 25日 GPS ナビゲーションアプリ企業 Waze 社の調査によると、国が直面している最も重大な問題とイスラエル人が考えているのは、交通渋滞、医療、住宅価格である。
- 25日 ハイファ-ナザレ間のライトレールの計画を担う企業が決定。スペインの Ineco 社とイスラエルの Yenon Research and Design 社の共同事業体が 3.2 億 NIS で落札。

- 25日 資源探査の Delek Drilling 社は、エジプトの天然ガス液化工場の持分取得を検討していることを発表。工場の候補は2つあり、工場のキャパシティを購入することや液化サービスを使用することなども検討のスコープに入っている。
- 25日 アリババがイスラエルの AR 眼鏡開発 Infinity Augmented Reality 社を買収。1,000万ドル以上と見られる。同社の R&D チームはアリババのイスラエルマシーンラボを拠点とする予定。
- 25日 米国に対する一定額（事業の性質により異なる）以上の投資と米国市民の雇用を約束するイスラエル人投資家に対し、米国の E-2 ビザが5月から与えられる。
- 26日 イスラエルの無線チップ・カメラセンサー製造 Tower Semiconductor 社が、パナソニックセミコンダクターソリューションズとの提携契約の3年間延長を発表。
- 26日 バスや電車で使用可能な旅行客向けの Rav-Kav カードが、ベングリオン空港で発売開始。自然公園への入園料 20%オフなどの特典つき。
- 26日 マクドナルドがイスラエルの AI スタートアップ Dynamic Yield 社の買収で合意。3億ドル以上とみられる。同社は、パーソナライズされた意思決定ロジック技術を開発。
- 26日 モービルアイの創業者兼 CEO でインテルの上級副社長の Amnon Shashua 氏が、同社の自動運転車の安全モデルをコピーしたとしてエヌビディアを非難。
- 27日 9月の日本への直行チャーター便を活用して、Rimon Travels 社と Ofakim Travel 社が日本ツアーを企画。
- 27日 フィッチは、イスラエルの長期外貨建て発行体デフォルト格付けを A+, 安定予測, AA シーリングとした。財政赤字のマイナス影響を好調な経済で相殺している状況。
- 27日 イスラエル鉄道の本バルディアからの 30~40 台の車両購入を、財務省が承認。エルサレム-テルアビブ高速鉄道の一部開通により、車両不足の状況続いていた。
- 27日 Pitchbook によれば、エルサレムのクラウドファンディング型 VC の OurCrowd は、関与した累積のディール数でみた場合に、イスラエルで最もアクティブな VC である。
- 27日 イスラエルの LIDAR 技術スタートアップ Innoviz Technologies 社が、1.32 億ドルのシリーズ C の資金調達を完了。企業評価額は 5.5~6 億ドルとみられる。
- 28日 中央銀行がイスラエル経済の減速を予測。2000-2016 年の平均成長率 3.3%に対し、2017-2035 年は 2.7%, 2036-2065 年は 2.3%。好ましくない人口構成が原因。
- 28日 大学においてコンピュータサイエンス、電気工学、ソフトウェア工学を学ぶ学生が予想を上回る規模に。高等教育評議会によれば、2022 年には、テクノロジー関連専攻が高等教育機関で最も選ばれる専攻となる見込み。
- 28日 シティグループ CEO の Michael Corbat 氏がイスラエルを訪問、フィンテックやサイバーセキュリティの起業家と面談。
- 28日 タイのアルコール飲料・食品コングロマリット Singha 社が、テルアビブと NY に拠点を持つイノベーションハブ SOSA と提携。
- 29日 情報筋によると、複数のモールを運営する Azrieli Group が、ユニクロのイスラエル店舗開設に向け、同社と交渉中。
- 29日 鉄道をディーゼルから電化に変えるプロジェクトは、当初の計画から既に 9 年遅れ。
- 29日 ヨルダン議会下院は、イスラエルのレバリアサン天然ガス田からのガスをヨルダンに供給する協定に対する反対を決議。ただし、同国下院の決議は主として象徴的なもの。

主要経済指標

1. 財政（NATIONAL ACCOUNTS）

- 2018年の財政赤字はGDP比3.1%。

中央統計局の発表によると、2018年の財政赤字はGDP比3.1%。目標としていた3.0%を上回り、2017年の3倍に達した。

出典：イスラエル中央統計局(https://www.cbs.gov.il/he/mediarelease/DocLib/2019/079/08_19_079b.pdf)

報道・Globes (<https://en.globes.co.il/en/article-2018-budget-deficit-revised-upwards-1001277342>)

2. 消費者物価指数（CPI）

- 2月期のCPIは前月比0.1%減

中央統計局の発表によれば、2019年2月期の消費者物価指数は前月より0.1%上昇。

過去1年間では1.2%の上昇で、イスラエル中央銀行が年間のターゲットレンジとしている1%~3%の下限近く。

2月期に価格上昇が著しかった製品は、生果物（7.4%高）、家具・生活用品（0.6%高）で、逆に下落したのは、衣類・履物（4.3%安）である。

中央統計局は12-1月期の住宅価格指数も公表。11-12月期から変化はなかった。住宅価格は、過去1年間でみると0.7%下落。

出典：イスラエル中央統計局(https://www.cbs.gov.il/he/mediarelease/Madad/DocLib/2019/085/10_19_085b.pdf)

報道・Globes (<https://en.globes.co.il/en/article-cpi-up-01-in-february-1001278213>)

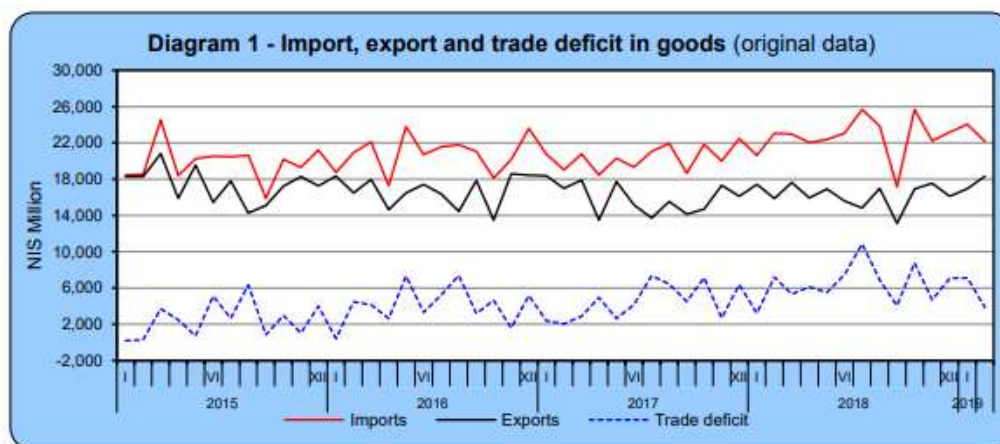
3. 貿易 (EXPORT & IMPORT OF GOODS)

● 2019年2月期の貿易赤字は39億NIS

中央統計局の発表によれば、2019年2月期の物品輸入は222億NIS、物品輸出は183億NISであり、貿易赤字は39億NISであった。

物品輸入（航空、船舶、ダイヤ、燃料除く）は直前3カ月間で年率14.4%増加した。11月期の輸入の43%は原材料（ダイヤ、燃料除く）であり、22%が消費財、15%が機械装置、陸上輸送機であった。残り20%はダイヤ、燃料、船舶、航空機である。

物品輸出（航空、船舶、ダイヤ除く）は直前3カ月間で年率9.0%増加した。鉱工業製品の輸出が全体の81%を占め、17%がダイヤモンド、残り2%が農林水産品であった。工業製品輸出のうち40%を占めるハイテク製品輸出は、直近3カ月で年率4.3%増加した。



(※ — : 輸入, — : 輸出, - - - : 貿易赤字)

出典 : (https://www.cbs.gov.il/he/mediarelease/DocLib/2019/082/16_19_082e.pdf)

4. 失業率 (UNEMPLOYMENT RATE)

● 2019年2月の失業率は4.1%

中央統計局は、2018年2月期の失業率は4.1%であり、前月比0.1%減だったと発表。労働参加率は64.2%で、前年比0.2%増。

2019年2月期の15才以上人口における労働人口は413.6万人、うち被雇用者数は396.6万人（男性206.1万人、女性188.7万人）となった。

出典 : イスラエル中央統計局 (https://www.cbs.gov.il/he/mediarelease/DocLib/2019/100/20_19_100e.pdf)



5. 為替 (EXCHANGE RATE)

● 3月もシェケル高で推移。

2019年3月期の為替は、中旬までは比較的安定的に推移したものの、14日には、翌日に公表されるCPIが高くなることを予想し、2018年9月以来1ドル3.6NISを割り込むシェケル高となった。実際、15日に公表されたCPIはプラス0/1%と、従前からの予想を上回った。

その後も、米国連邦準備銀行パウエル議長の年内は利上げを行わないとの発言を受け、イスラエル中央銀行では年内の利上げが見込まれていることから、シェケル高が続いた。

下旬にはガザでの緊張の高まり等を受けて、ややシェケル安に振れたものの、水準そのものはシェケル高基調。

出典：報道・グローブス紙 (<http://www.globes.co.il/en/market.tag>)

グラフ出典：中央銀行・2月のドルシェケル相場推移 (<https://www.boi.org.il/en/Markets/ExchangeRates/Pages/Chart.aspx?CurrencyId=3&DateStart=01%2F03%2F2019&DateEnd=29%2F03%2F2019&webUrl=%2Fen%2FMarkets%2FExchangeRates>)

6. 外貨準備高 (FOREIGN RESERVE)

● イスラエルの外貨準備高、ほぼ前月同。

中央銀行による7日の発表によれば、2019年2月末時点の外貨準備高は、前月比2.07億ドル減となる1,179億ドルであった。現在、外貨準備高はGDPの31.9%を占める。

減少の要因は、政府による海外への移転(6.84億ドル)であったが、中銀による外貨購入(0.02億ドル)、民間移転(0.31億ドル)、評価替(4.44億ドル)によって一部相殺された。

出典：イスラエル中央銀行 (<https://www.boi.org.il/en/NewsAndPublications/PressReleases/Pages/070319.aspx>)



7. 主要株価推移（TA35）

● 3月のテルアビブ証券取引所（TASE）関連ニュース

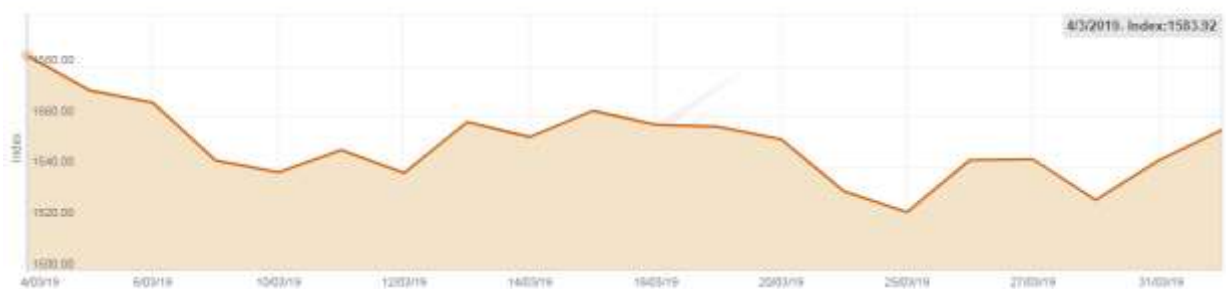
11日、グローバルな証券会社 Interactive Brokers 社がテルアビブ証券取引所での売買の扱いを開始。

19日、Unitronics 社からスピンオフした自動駐車場開発 U-tron 社が上場。

● 月間推移

Trading Chart - TA-35

04/03/2019 - 31/03/2019



● 年間推移

Trading Chart - TA-35

01/04/2018 - 27/03/2019



出典：テルアビブ証券取引所 (<https://www.tase.co.il/en>)

イスラエル経済関係記事

外国投資規制 政府は外国からの投資を監視する委員会設立を検討

イスラエル国家安全保障会議（NSC）のメール・ベン＝シャバット議長が、イスラエルへの外国投資を点検する委員会の創設を3日の閣議に提案した。シャバット議長は、当該委員会をどのように運営するかについて、様々なオプションを提示した。イスラエル・カッツ諜報大臣が母親の死去によって参加できなかったため、本件に関する決定は延期された。

外国投資に対する委員会の必要性は、中国投資家がイスラエルの保険企業 Phoenix Holdings の買収に関心を示した数年前に初めて持ち上がったが、潜在的な取引に対して安全保障の観点から責任を有する公的機関は存在しなかった。こうした委員会がないことは、ここ数か月にわたって政府のアジェンダとなっている。昨年夏、首相府は外国投資をどのように監視すべきかという議論を開始した。そして1月になって、アルガマン保安庁長官は、中国による投資はイスラエルの安全保障に脅威を与えていると警告した。

中国企業は、ハイファ港やテルアビブ・ライトレール鉄道網といったインフラプロジェクトに関与しており、ハイテク企業に対する大投資家としても存在感を増している。ペンタゴンの高官は、ハイファ港への中国の関与によってイスラエルと米国の海軍の協力が困難になるかもしれないと警告している。

外国投資に関する監視は、ヨーロッパや豪州でも厳しくなっているが、イスラエルの場合、米国と中国という二つの超大国の間の位置取りゆえ、事態はとりわけセンシティブである。

提案された委員会はあらゆる外国投資を扱うが、真の狙いは中国による投資である。ネタニヤフ首相は、北京との関係を築こうとして、中国からの投資を長い間奨励してきた。1月、米国の国家安全保障顧問問題担当大統領補佐官ジョン・ボルトンは、イスラエル訪問時に、イスラエルと中国との商業的関係とイスラエルの技術への中国のアクセスが増大していることについて、首相に懸念を表明した。そして、米国メディアは、米国が有するような外国投資規制をイスラエルが有していないことを指摘してきた。

安全保障関係の政府関係者が懸念しているのは、重要性が高い、そして国家インフラとも言うべきイスラエル企業を、中国が支配又は深く関与する事態が起こるかもしれないということである。また、企業及び公的機関に対する中国からのサイバー攻撃のおそれがあることに加え、最大の危険は、中国のビジネスマンがセンシティブな情報にアクセスすることである。

ある政府高官が語ったところによると、中国からの投資は純粋に経済的問題に留まらず、インテリジェンスの要素を持つという。「影響力に関する問題だ。中国がインフラを買えば買うほど、米中間の闘争で優位を築くのである」と話す。イスラエルは、周知のとおり、米国と多くの部分で戦略的に連携している。米国はこうした連携を中国からの投資と並べてみせ、だみ声で、代わりに何らかの行動を起こすことを期待しているとイスラエル政府を小突くのである。

クネセットのオメール・バー＝レブ議員（労働党）とオフエール・シエラー議員（イエシュ・アティード党）は、それぞれ、この件に関する法制化に取り組んできた。バー＝レブ議員の法案は、重要技術、国家インフラプロジェクトに関係する場合又はイスラエル市

民のセンシティブなデータにアクセスする場合には、イスラエル企業は政府の承認を得なければならない。

事情通によると、NSCは、ハイテク産業のように現在は規制されていない分野についても同委員会に監督させるようにすることに関心を持っている。

本件を議論した大臣たちは、防衛上の懸念に対して理解を示しているが、もう一方にある問題を無視するわけにはいかない。それは、外国投資に対する規制が与える重大な影響である。好ましからざる状況、具体的にはイスラエルから外国投資を一掃してしまうようなレベルにまでつながる規制、官僚的手続、制限となると話は別である。複数の政府関係者が匿名を条件に語ったところによると、複数の省庁が提案に反対している。関係者によると、こうした委員会のプロセスは機密性を要するため、問題のある財政上の考慮が一般の目から隠されてしまうという懸念があるからだ。また、これにより、外国投資家に対するイスラエルの魅力が減ってしまうという懸念もある。

イスラエルはハイテク大国で、世界経済において重要な一角を占めるとみなされている。ハイテクは、イスラエル経済成長のエンジンの一つであり、輸出に対する貢献は非常に大きい。ほとんどとまでは言わないまでも、産業のかなりの部分、特に製造業のかなりの部分は外国投資に基づいており、多くのスタートアップ、そして主として多国籍企業が支社や開発センターを開設している。

こうした企業は、異なる種類の雇用—ハイテク労働者とその他の従業員—を創出するとともに、エコシステムも創り出している。キリヤット・ガットのインテルの工場が良い例である。インテルは、新たな投資に対する政府の承認得るために塗炭の苦しみを味わっている。こうした官僚的手続に加え、安全保障関連機関が関係するとなおさら、イスラエルへの投資を奨励しないほうに振れるだろう。保安庁の代表が外国投資家との交渉に加わることは、イスラエルへの投資を促進しないのである。

ある国が「投資を監視したい」と言えば、特にどのように監視が実行されるのか明らかにされないままそのように言った際には確実に、通常ほとんどの自由国家では開示する必要のないデータと情報を開示する義務が課されることになる。

こうした懸念も受け、情報筋によると、再度本件が議論された17日の閣議でなされた提案では、委員会の関与には裁量が持たせられることとなった模様。つまり、規制当局は、外国投資案件に関して、新たな委員会を関与させるかさせないかを選択できるようにする、という提案だ。なお、NSCは現在でも、意見が求められるかどうかに関わらず、外国企業による取引に赤信号を出す非公式の部門を有している。

委員会の構成が議論的となっている。財務省は、安全保障関連の代表が過半数を占めることは、外国投資家に対するイスラエルの魅力を現示させるとして、反対している。

当初の提案に含まれていた条項のうち、現在検討の外に外されたと見られるのは、委員会の権限を例えばテクノロジー分野に広げるというNSCの思惑である。現在規制されていないイスラエルのテクノロジーは、この国の経済成長のエンジンを考えられている。

本件に関する閣議決定は安全保障閣議の枠組みでなされるため、公式な発表はないと見られる。

出典：各紙報道 (<https://www.calcalistech.com/ctech/articles/0,7340,L-3757449,00.html>)

(<https://www.pc.co.il/featured/286012/>) (<https://www.haaretz.com/israel-news/business/netanyahu-wants-to-bring-trump-good-news-about-chinese-investments-1.6997516>) (<https://www.calcalistech.com/ctech/articles/0,7340,L-3758217,00.html>)

インフラ 1,960 億 NIS 相当のインフラ案件を政府が推進中

イスラエル首相府は、今後4年間で204件のメガプロジェクトをリストアップした「成長のためのインフラ2019」と題した文書を公表した。この文書は、以下の基準を満たす全ての物理的インフラ案件を掲載している。基準①：最低1億NIS相当、基準②：「政府のパイプラインに入っている」、つまり省庁又は省庁が責任を有する機関が予算取り又は承認の手続きをしている。

リストで最も多くを占めたのは運輸・道路安全省で、64件計1,220億NIS。次が水・エネルギー省で、電力、ガス、燃料、水、下水処理などで390億NIS。全案件の総額は1,960億NISと見積もられ、2017年9月に公表された第一弾のリスト（147件1,160億NIS相当）と比較した成長ぶりが印象深い。

なぜ、およそ1年のうちに、800億NISも金額が急増したのだろうか？首相府高官のOren Cohen氏とRoey Dror氏の説明によると、主に2つの理由による。1つ目の、そして特に重要な理由は、今年のリストはより包括的で詳細なものであり、前回のリストに含まれていなかった防衛省、通信省、財務省、建設・住宅省が含まれている。テルアビブにおけるレッドライン（鉄道）のような案件も、今年になって初めて掲載された。

2つ目の理由は、前回版の公表以降新たなプロジェクトが加えられたことである。最も顕著な例が、イスラエル電力公社改革の結果として出てきた100億NIS相当の発電所プロジェクトである。ハデラでの2つの新たな発電所及び一連の送電線の建設計画がある。

他方で、多くの案件がリストから外れたままであり、それらの金額がリストに含まれた案件の合計金額を上回っている。その最も大きなものは、テルアビブの地下鉄計画で、1,500億NISと見込まれている。エイラットへの高速鉄道（500億NIS）やキリヤット・シュモナへの鉄道（100億NIS）もリストから外れたままで。その理由は、これらの案件はまだ予算化がされておらず、経済的実現性に関する調査が済んでいないものや政府の承認を得ていないものがあるためだ。加えて、ネゲヴにおける国防軍のインテリジェンスセンターのように、リストには掲載されているものの、金額が書かれていないものもある。

今年のリスト作成のやり方で改善している点は、様々な案件のタイムテーブルと状況がより効率的にモニターできるようになった点である。予算の見積額も、前回より詳細になっている。リストの作成者は、今後もデータの質を向上させていくこととともに、例えば、ファイナンスの種類ごとに必要な投資額といった詳細を含めることも約束している。リストがモデルとしているのは、カナダ政府や英国政府が公表しているリストである。

では、このリストの目的は何だろうか。まずは、経年でモニターや統制を加えることである。タイムテーブルや予算を公表してプロジェクトをピン留めし、説明責任を課すことで、意思決定者がプロジェクトを遅延させたり予算を超過させたりすることを難しくする。

2つ目の目的は、海外の投資家が利用可能な案件一覧をつくることである。リストアップ化というアイデアは、ネタニヤフ首相及び首相府のEli Groner次官が世界最大の資産運用会社BlackRock社の代表者と会った際に出てきた。同社は、投資可能な余剰資金があるのに投資可能な案件が不足していることに不満を持っていた。

3つ目の目的は、明示されていないものの、PPP(public-private partnership)のファイナンスモデルを促進することである。PPPでの持続可能性が確かめられた案件は、それがわかるようにマークが付されている。確認がなされた案件は今年のリスト中27%で、昨年15%と比較すると、首相府はこれを評価しているだろう。

出典：Globes

(<https://en.globes.co.il/en/article-infrastructure-projects-worth-nis-196b-in-go-vt-pipeline-1001271418>)

リストは、こちらを参照。

https://www.gov.il/BlobFolder/news/spoke_book030219/he/Spoke_growth140219.pdf

スタートアップスケールアップネーションへ

何年にもわたり、研究機関やハイテク界のリーダー、政府の大臣は、イスラエルはスタートアップネーションからスケールアップネーションに変わっていると主張してきた。つまり、数千万から数億ドルのエグジットの数が少なくなるということである。その代わりに、次のテックジャイアントがイスラエルから生まれる。

IVCリサーチによる資金調達ラウンドに関するレポートがこのことを裏付けている。このレポートによると、アーリーステージの資金調達ラウンドは減少している一方、資金調達ラウンドの数は増えている。その結果、過去2年間、1億ドル超えの資金調達はもはや珍しいことではなく、数千万ドルの資金調達は日常茶飯事となっている。

ファンドや企業投資家がつぎ込む金額が増えていることに加え、グロース企業と分類されるためには、主として、売上を立てる、つまり販売の能力が求められる。ますます多くのイスラエル企業によって、時差、専門的ノウハウの不足、言語の壁等の課題を抱えながらも、数千万から数億の売上をグローバルマーケットでたてることが可能であることが証明されている。そうした企業はいまはまだ例外的存在であるが、急成長を遂げている資金調達ラウンドによって、今後さらに多くの企業が仲間に加わるだろう。

一般に受け入れられている定義によれば、グロース企業とは、500~1,000万ドルの資金を調達しており、最低年間100万ドルの売上か、販売活動において最初の5年間で毎年20%成長を続けている企業を指す。さらに、例外的なほど速いペースで成長する企業を探しているグロースファンドにとっては、グロースステージの企業に投資するための条件は、最低年間1,000万ドルの売上か年率100%の成長である。SaaS (Software as a Service) 企業に投資する投資家の中には、最初の2年で売上を毎年三倍、次の3年で毎年二倍にすることを求める者もいる。

では、そうした企業はイスラエルにどのくらいあるのか。非公開企業に関することであり、売上に関する数字も非公開なので、推測することしかできないが、関係者によると、売上が1,000万ドル以上あるハイテクのグロース企業は数百社あり、売上5,000万ドル以上となると50社未満だろうという。IVCのレポートによれば、2018年にラウンドAの資金調達を行った企業は435社あり、上記の規模の売上達成に向け努力を続けている。

出典：Globes

(<https://en.globes.co.il/en/article-building-a-scale-up-nation-1001279512>)

AI イスラエルの AI 分野の企業が 1,100 社を突破

Start-Up Nation Central が発表したレポートによれば、イスラエルの人工知能スタートアップにとって 2018 年は「突出した年」になった。2014 年から 2018 年にかけて、AI 分野の企業は 512 社から 1,150 社に増加した。この企業数には、コア技術として AI を開発している企業も、ヘルスケア、サイバーセキュリティ、自動運転といった領域で製品やサービスを開発する際に AI を活用している企業も含まれる。

2018 年、AI 関連企業は、イスラエルで活動する全ハイテク企業の 16% を占め、全資金調達ラウンドの 37%、全資金調達の 37% を占めた。2017 年より約 10 億ドル多い 22.5 億ドルを調達した記録的な年となった。

テルアビブのマーケティング・インテリジェンス・プラットフォーム企業を 8.5 億ドルで買収したセールスフォースが、最も高い買収元企業となった。メドトロニックに 1 億ドルで買収された Nutrino 社、キヤノンに 0.9 億ドルで買収された BriefCam が、その他の目立った例である。

Start-Up Nation Central の CEO Eugene Kandel 氏は述べる。「イスラエルのイノベーションエコシステムは力強い成長のただ中にある。2018 年も、素晴らしい企業とカッティングエッジな技術を生み出す年となった。また、世界のトップ企業のイスラエルでのプレゼンスが増していることも示唆的である。過去 10 年間毎年、20 社以上の多国籍企業が研究開発センターをイスラエルに開設しており、その多くが買収を通じたものである」

2018 年は、特にインテルの活動によって、多国籍企業にとって AI 関連の年となった。同社は、キリヤット・ガットに新たな半導体工場を建設するために 110 億ドルの投資を計画しており、またハイファのテクニオン大学とともに人工知能センターを設立した。グーグルや IBM、マイクロソフトも、新たな AI 製品を生み出すためにイスラエルの研究開発センターに頼っていることが、昨年発覚した。

Kandel 氏は言う。「多くの多国籍企業が、イスラエルのイノベーションとの協業の方法を変えており、スタートアップの買収と並行して、またはその代わりに、エコシステム全体とのオープンイノベーションの取組を増やしている。これはとても良い傾向だ。なぜなら、エコシステムは、多国籍企業と地元企業との間でバランスをとる必要があるからだ」

昨年、ハイテク領域全体では 645 社のスタートアップが 681 件の資金調達ラウンドで 60 億ドルを調達し、一昨年の 52 億ドルという記録を更新した。30 か国以上から 1,500 近い投資家がイスラエル企業に投資しており、イスラエル人投資家とアメリカ人投資家がほとんどの案件に関与している。英国、ドイツ、中国、日本も一桁台の割合を保っている。

活動中のハイテク企業数は毎年着実に伸びており、現在 6,600 社を超えているが、一方で、グローバルなトレンドを反映して、成熟企業も一定の層をなして伸びている。シリーズ B の投資額の中央値は、2014 年の 1,000 万ドルから 1,750 万ドルへと 75% 増えた。

ハイテク領域での成功を支える支援体制も成長を続けており、一年間で 22 の新たなハブが開設された。国全体でみると、220 のインキュベーター、アクセラレーター、コワーキングスペースが稼働中である。

出典： The Jerusalem Post

<https://www.jpost.com/Israel-News/Israeli-hi-tech-enjoys-AI-boom-583043>

日イスラエル経済関係記事

サイバー、IOT 等みずほ情報総研及び京都リサーチパーク、ベルシェバの GAV-YAM NEGEV と業務協力覚書を締結

みずほ情報総研株式会社及び京都リサーチパークは、2019年3月17日、イスラエルの先端技術パークである Gav-Yam Negev Advanced Technologies Park と、先端技術を活用した日本-イスラエル間の新たなビジネス推進に向けた戦略的パートナーシップに関する業務協力覚書を締結した。

Gav-Yam Negev は、イスラエル南部ベルシェバの研究開発特区に拠点を置く先端技術パークで、サイバーセキュリティ分野を中心に先進的な研究を行うベングリオン大学との連携によって運営されてる。近年は多くの研究開発型ベンチャー企業を排出し、多国籍企業の研究開発拠点が集積する地域として急速に成長している。

本覚書の締結により、みずほ情報総研及び京都リサーチパークは、Gav-Yam Negev との日本-イスラエル間のビジネスニーズ、技術情報などの共有を通じて、日本企業とイスラエル企業の協業、共同研究開発の推進など、両国が継続的に連携できる体制の構築に取り組む。具体的には、「常設的にイスラエルのスタートアップ企業にリーチできる仕組」「日本企業が自社の持つリソースや技術とともに、解決したいニーズ（課題）をイスラエルのスタートアップ企業に提示し、ニーズに対応したスタートアップ企業を紹介するプログラム」を提供する予定。

出典：プレスリリース

(<https://www.mizuho-ir.co.jp/company/release/2019/mou0328.html>)

(<https://www.krp.co.jp/news/detail/1252.html>)

半導体 TOWER SEMICONDUCTOR がパナソニックセミコンダクターソリューションズとの提携契約を 3 年間延長

半導体チップファウンドリ専門の世界大手 Tower Semiconductor 社 (TowerJazz) と TowerJazz Panasonic Semiconductor Company 社 (TPSCo) は、パナソニックセミコンダクターソリューションズ (PSCS) との事業提携を、2022 年まで 3 年間延長することを発表。PSCS は、半導体事業のために、TPSCo が日本に有する 3 つの製造設備を引き続き活用する。PSCS が TPSCo の工場に要求するウェハー製造水準は現在と同じになるが、価格政策は新たなものとなるため、TPSCo は 1 四半期当たり約 2,000 万ドルの売上減となる。ただし、当該価格政策は、現在実施中の生産能率向上及びコスト削減、並びに現在強みであり伸びている 300mm 活用を含む第三者からの売上増加によって埋め合わされることを狙った売上及び利益を前提にして設定されたものである。

TowerJazz CEO で TPSCo 会長の Russell Ellwanger 氏は述べる。「TPSCo のパートナーシップによって、アナログ部品とシステムの有名企業として知られるパナソニックと、アナログファウンドリ大手として認識されている TowerJazz とが、一緒になって、アナログファウンドリ業界の成長を続けさせていく企業を創設することができた。これは、他のファウンドリが単独でできないことである。過去 5 年、我々は、技術的な能力という観点で成長を続けており、事業の目利きとやればできるという姿勢をパートナーであるパナソニックに学べたことに感謝している。我々 TPSCo の従業員は、基本として、高度な技術的専門性とシンプルな業務運営能力を有しており、180 以上の顧客が TPSCo を活用していて、300mm の最新鋭 RF、電力マネジメント及び CMOS 井マージフローにおける強力な成長を感じている。これは、TowerJazz, PSCS, TPSCo そして全ての重要な顧客という関係者全員にとっての価値の方程式であり続けるだろう。

TPSCo を通じ、TowerJazz は、最新鋭 65nm CMOS イメージセンサーソリューション、RF SOI 65nm、65nm 二極 CMOS-DMOS 電力マネジメントシステムといった、先進 300mm アナログテクノロジー製造プラットフォームを顧客に提供している。

TowerJazz が TPSCo 株式の 51%、PSCS が 49%を保有している。

出典：プレスリリース

(<https://www.nasdaq.com/press-release/towerjazz-announces-signing-threeye-ar-agreement-extension-with-panasonic-semiconductor-solutions-20190326-00117>)

イスラエルにおける展示会・国際会議の今後の予定

※イベント会議の詳細情報については、各イベント事務局のウェブサイトを御覧ください。

※日本からお越しになる方には、現地情勢のブリーフィング等、各種サポートをさせていただきますので、御連絡ください。ぜひ大使館にもお立ち寄りください。

航空 THE 59TH ANNUAL CONFERENCE ON AEROSPACE SCIENCES (2019年5月6日, テルアビブ, 7日, ハイファ)

イスラエル航空企業が参加する, エンジニア, 科学者等専門家向けのカンファレンス。

<https://iacas.technion.ac.il/>

バイオ MIXIII BIOMED (2019年5月14~16日, テルアビブ)

ヘルスケアやライフサイエンスの将来について議論する国際会議・展示会。今年は医療機器, バイオフィーマ, デジタルヘルス・デジタル診断などをフォーカス。分野としては, 遺伝子編集, レギュラトリー・イノベーション, 個別化診断・治療, ブレイン・ヘルス, 予防・リハビリ, 感染症・ワクチン等を取り上げる。

<http://kenes-exhibitions.com/biomed/>

NEW **マイクロエレクトロニクス** CHIPEX2019 (2019年5月12~13日, テルアビブ)

マイクロエレクトロニクス産業に関するカンファレンス・展示会。メディア企業 ASG (Advanced Systems Group) 社が半導体協会と共催。

<http://chipex.co.il/?CategoryID=217>

NEW **通信** 5G UNIQUE SUMMIT (2019年5月16日, リシオン・レツィオン)

5Gに関するイベント。メディア及びイベント企画の People & Computer が主催し, 500人の参加を見込む。

<https://www.5gtlv.com/>

NEW **アジャイル開発** AGILE ISRAEL 2019 (2019年5月21日, リシオン・レツィオン)

アジャイル開発, リーンスタートアップに関するイベント。本年 12 回目。

<https://www.agileisrael.co/>

NEW **アクセシビリティ** **ACCESS ISRAEL'S 7TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON THE FUTURE OF ACCESSIBILITY** (2019 年 5 月 23~27 日, テルアビブ)

障がい者や高齢者にとってのアクセシビリティ向上を目指す NPO が主催する国際カンファレンス。

<https://aisraelcon.org/en/>

NEW **宇宙** **TECHNOLOGY AND SPACE CONFERENCE** (2019 年 5 月 26~29 日, エルサレム)

宇宙産業に関する国際カンファレンス。スタートアップや投資家, 企業など 650 名の参加を見込む。本年初開催。若年層への STEM 教育を手がける StellarNova 社と, 航空・宇宙産業に投資を行う VC である BlackFireX Capital 社が共催。

<https://www.technologyandspace.com/>

NEW **AI** **AI 2019** (2019 年 5 月 28 日, テルアビブ)

AI に関するカンファレンス・展示会。医療, 防衛, 産業分野, 自動運転等に関するレクチャーが予定されている。

<https://www.new-techevents.com/ai-2019/>

ハイテク **NEW-TECH 2019 EXHIBITION** (2019 年 5 月 28~29 日, テルアビブ)

ハイテク及びエレクトロニクス分野における大規模な展覧会。150 以上の企業から 1000 人以上の参加者が訪れる。対象分野は, クリーンルーム設備, 電子光学機器, レーザー, ファイバー光学, レンズ, カメラ, 印刷基板, ソフトウェア, 組込システムなど幅広い。

同時に, AI, スタートアップ, 医療技術, ロボティクス, IoT に関するカンファレンス・展示会がそれぞれ開催される。

<https://www.new-techevents.com/new-tech-exhibition/>

NEW **IT** **ISRAEL EDUCATION INNOVATION WEEK** (2019 年 6 月 2~6 日, テルアビブ)

教育産業におけるイノベーションに関する国際カンファレンス・展示会。4～5日に開催される Israel Education Summit2019 を中心に、イノベーションエコシステム関係者とのミーティングツアーなども企画。1,000 人規模の参加者を見込む。教育産業、メディア等に関する投資銀行 East Wind Advisors 社と、エドテック関連団体 EdTech Israel が主催。

<http://www.edtechsummit.org.il/>

NEW **トークチェーン** **TOKEN FEST – THE BUSINESS OF BLOCKCHAIN**
(2019 年 6 月 3～4 日, テルアビブ)

トークナイゼーション, 仮想通貨経済, ICO, デジタル商取引に関するカンファレンス。

<https://tokenfest.io/>

NEW **スポーツテック** **FUTURE SPORT ISRAEL** (2019 年 6 月 3～6 日, テルアビブ)

世界有数のスポーツやメディア企業が、ホームコートで画期的なテクノロジーを提供するための最前線の席を確保するのに最適な環境を作り出すことを目的としたイベント。80 以上のスポーツテックのスタートアップが参加予定。経済産業省, イスラエル輸出機構が主催

<https://www.futuresportisrael.co.il/>

NEW **防衛** **ISRAEL DEFENSE & HLS EXPO 2019** (2019 年 6 月 4～6 日, テルアビブ)

防衛, 国土安全保障, サイバーセキュリティに関する展示会。300 以上の出店を見込む。

<https://www.isdefexpo.com/>

観光 **TRAVEL TECH ISRAEL 2019** (2019 年 6 月 10～12 日, テルアビブ)

トラベルテック関連の国際カンファレンス。トラベルテック, フィンテック, サイバー, IoT 等のコンサルティングを手がける企業が主催。今回で 4 回目の開催。

<http://www.traveltechisrael.com/>

スマートモビリティ **ECOMOTION WEEK 2019** (2019 年 6 月 10～13 日, テルアビブ)

非営利シンクタンクである Israel Innovation Institute と、首相府の取組である「Fuel Choices and Smart Mobility Initiative」, 経済産業省が連携した事業である EcoMotion の年次イベント。4,000 人, 130 のスタートアップが参加する, カンファレンス・展示会。

<https://www.ecomotion.org.il/>

NEW REACT REACT NEXT 2019 (2019 年 6 月 11 日, テルアビブ)

JavaScript のフレームワークである React に関するイベント。React Native, Redux, MobX 等について議論する。React の初心者も上級者も対象とする。昨年は, 750 名のチケットがソールドアウトした。

<https://react-next.com/>

NEW モバイル ISRAEL MOBILE SUMMIT 2019 (2019 年 6 月 12 日, テルアビブ)

モバイルアプリ, ゲーム, アドテクに関する大規模イベントで, 2,000 人以上の参加を見込む。展示会, スタートアップのコンテスト, ネットワーキング等の各種イベントが開催。本年 9 回目。

<https://www.israelmobilesummit.com/>

サイバーセキュリティ CYBERWEEK (2019 年 6 月 23~27 日, テルアビブ)

テルアビブ大学が主催するサイバーセキュリティに関するイベント。一週間にわたり, メイン会場での学術会議に加え, ラウンドテーブルやパネルディスカッションなど多様なサイドイベントが開催される。

<https://cyberweek.tau.ac.il/>

NEW 農業 AGRISRAEL4.0 (2019 年 6 月 24~27 日, テルアビブ)

農業・農村開発省, 経済産業省, 外務省, イスラエル輸出機構が主催する農業技術に関するイベント。専門的なセミナー, デジタル・ロボット農業や精密農業等に関するデモンストラーションのほか, B2B ミーティングや視察等もアレンジしてもらえる。

<https://agriisrael.com/>

フィンテック FINTEC JUNCTION (2019 年 6 月 26~27 日, テルアビブ)

今年 3 回目となるフィンテックに関する国際カンファレンス。1,500 名規模の参加者を見込んでおり, オープン・バンキング, ブロックチェーン, 仮想通貨・ICO, 規制, サイバーセキュリティ, AI, P2P プラットフォームなどを扱う。

<https://www.fintechjunction.com/>

NEW SAAS SAAS TIGER (2019年6月26~27日, リシオン・レツィオン)

SaaS分野における成長を目指し、関係する営業、製品開発、投資、ベンダー等を巻き込んだ包括的なイベント。メディア及びイベント企画のPeople & Computerが主催し、700人の参加を見込む。

<https://www.saastiger.com/>

NEW 宝飾品 JOVELLA 2019 (2019年7月9~10日, テルアビブ)

イスラエルジュエリー産業の見本市。本年16回目の開催。

<https://www.stier.co.il/jovella/en/>

NEW ハルスケア THE 1ST CONGRESS ON WOMEN'S HEALTH INNOVATIONS & INVENTIONS (2019年7月9~11日, テルアビブ)

女性の健康問題におけるアンメット・メディカル・ニーズに関する国際会議・展示会。ハッカソンも開催される。本年が初開催。

<http://whii.comtecmed.com/>

NEW サイバーセキュリティ ICS CYBERSEC 2019 (2019年9月16日, リシオン・レツィオン)

産業用制御システムに特化したサイバーセキュリティに関するイベント。メディア及びイベント企画のPeople & Computerが主催し、600人の参加を見込む。

<https://www.icscybersec.co/>

イノベーション DLD TEL AVIV INNOVATION FESTIVAL 2019
(2019年9月16~19日, テルアビブ)

イスラエルにおける最大規模のイノベーション及びスタートアップの祭典。イスラエルのスタートアップをはじめとする企業と世界各国からの投資家が集まり、様々なカンファレンスや展示が催される。

<https://www.dldtelaviv.com/2019/index.php>

NEW **印刷** ISPRINT (2019年10月29~31日, テルアビブ)

印刷, デジタル印刷, グラフィクス, サイネージ等に関する展示会。

<https://www.stier.co.il/isprint/en/>

NEW **通信** IEEE COMCAS 2019 (2019年11月4~6日, テルアビブ)

マイクロ波, 通信, アンテナ, 電気システムに関する国際カンファレンス。世界約40か国から1,500人以上の参加者を見込む。本年は, デジタル AESA レーダー, Intuitive Microwave Filter Design with EM Simulation, 5G, IoT 通信などを取り上げる。

<https://www.comcas.org/>

NEW **再生医療** 7TH INTERNATIONAL STEM CELL MEETING (2019年11月12~13日, テルアビブ)

イスラエル幹細胞学会が主催する国際学会。

<https://www.stemcell2019.org/>

NEW **水** WATEC ISRAEL 2019 (2019年11月18~21日, テルアビブ)

水・環境技術に関する国際展示会。水・エネルギー・環境分野の企業が主として参加し, 新たなビジネスパートナーや投資家等を見つける機会となる。水技術に関するカンファレンスや専門家パネル等のイベントも多数併催される。

<http://watec-israel.com/>

セキュリティ CYBERTECH (2020年2月3~5日, テルアビブ)

サイバーセキュリティの国際会議, 展示会。米国以外で行われるものとしては世界最大級。産業界, 政府政策決定者, 技術専門家等が世界から訪れる。ネットワーキング機会の提供も行っており, B2B ミーティング機会も提供される。

<http://www.cybertechisrael.com/>

日本におけるイスラエル関連イベントの今後の予定

※イベント会議の詳細情報については、各イベント事務局のウェブサイトを御覧ください。

New **建設技術** **第1回関西-イスラエル Web セミナー【建設技術】**（4月17日，大阪・ウェブ上）

IT・AI等を駆使した、次世代の建設現場を支える技術の数々を披露。メイン会場は大阪だが、Web会議システムを通してパソコンやスマートフォンからも参加可能。

在日本イスラエル国大使館が主催し、関西・イスラエルビジネス交流推進連絡会議（予定）及び大阪イノベーションハブが共催。

https://israel-keizai.org/events/event/web_seminar_construction_technology/

農業 **第3回農業 Week 大阪**（5月22～24日，大阪）

イスラエル企業参加予定。

<https://www.agriexpo-osaka.jp/ja-jp.html>

NEW イスラエルの大学の夏季・冬季短期プログラム

※詳細情報については、各ウェブサイトをご覧ください。

<各大学のアントプレナーシップサマープログラム>

- ヘブライ大学

InnovNation

<https://overseas.huji.ac.il/academics/summer-and-short-term-programs/faculty-led/special-programs/innovnation/>

- テルアビブ大学

Business & Entrepreneurship in the Start-up Nation

https://international.tau.ac.il/Business_Entrepreneurship

- テクニオン工科大

Summer In Entrepreneurship With Professional Internship

<http://int.technion.ac.il/academic-programs/short-term-programs/summer-program/>

- ベングリオン大学

Entrepreneurship & Innovation

<http://www.bgustudyabroad.org/academic-programs/semester-entrepreneurship-innovation/>

- ハイファ大学

Summer Innovation Academic Tour

<https://uhaifa.org/academics/summer-programs/summer-innovation/summer-innovation-academic-tour-program-description>

<各大学の短期プログラム（総合）>

- ヘブライ大学

<https://overseas.huji.ac.il/academics/summer-and-short-term-programs/>

- テルアビブ大学

https://international.tau.ac.il/summer_institute

● テクニオン工科大学

<https://int.technion.ac.il/academic-programs/short-term-programs/introduction/>

● ベングリオン大学

<http://www.bgustudyabroad.org/academic-programs/summer-programs/>

● ハイファ大学

<https://uhaifa.org/academics/summer-programs>

● ワイツマン科学研究所

<https://www.weizmann.ac.il/feinberg/admissions/kupcinet-getz-international-summer-school/about-program-0>

● IDC ヘルツェリヤ

<http://portal.idc.ac.il/en/main/global-engagement/pages/short-term-programs.aspx>